（様式３）

海　外　視　察　報　告　書

令和７年２月 18 日

横浜市会議長
鈴木　太郎　様

横浜市会議員
氏名　太田　正孝

次のとおり海外視察をいたしましたので、その結果を報告します。

１　目　　的

パラオ共和国大統領スランゲル・ウィップス・ジュニア閣下及び駐日パラオ共和国特命全権大使ピーター・アデルバイ閣下による招待を受けて、令和６年に外交関係樹立30周年を迎えた同国を訪問しました。

パラオ共和国は、第二次世界大戦終結までの約30年間にわたり日本が統治し、最大都市のコロールには当時のミクロネシア地域を統括する「南洋庁」が置かれ、多くの日本人が居住した時期もありました。また、日本航空の前身でもある大日本航空による飛行艇（水上飛行機）が、横浜・根岸からサイパン経由でパラオのアラカベサン島まで定期運航するなど、横浜との歴史的繋がりも有しています。

このような背景をもとに、戦前から交流の深いパラオ共和国を訪問し、政府・行政・州議会関係者との面会・意見交換や、日本政府や独立行政法人国際協力機構（JICA）による技術協力等の現場視察を通じて、同じ海洋国として直面する地球規模課題（気候変動、カーボンニュートラル、脱炭素、廃棄物管理等）への対策について調査研究を行いました。

２　場　　所

パラオ共和国

３　期　　間

自　令和６年11月18日（月）
至　令和６年11月22日（金）

４　調査事項

日本政府による対パラオ国別開発協力方針に基づき、以下の分野について、パラオ政府・行政・州議会関係者との面会・意見交換や、日本政府や独立行政法人国際協力機構（JICA）による技術協力等の現場視察を行いました。

（１）持続可能な海洋の実現

（２）社会基盤・産業育成基盤の強化
　　民間投資の支援及び人材育成

（３）気候変動・環境問題・防災への対応

５　参加議員リポート・資料

別添のとおり

パラオ共和国　視察報告

目　　次

１　視察日程

２　パラオ共和国における視察

（１）パラオ共和国の概況

（２）パラオ共和国と横浜市の関係

（３）視察及び意見交換の概要

1　視察日程

日にち	内容	宿泊
＜１日目＞ 令和６年 11 月 18 日（月）	【移動】 成田発→グアム着 グアム発→	
＜２日目＞ 令和６年 11 月 19 日（火）	コロール着 【駐パラオ日本国大使館訪問】（ア） ・駐パラオ日本国大使館　臨時代理大使 ・JICA パラオ事務所　所員 【案件視察等】（イ）～（カ） ・ベラウ・エコ・グラス・センター視察 ・島嶼国型ブルーエコノミーの優良事例 　形成プロジェクト視察 ・日本政府が供与した漁船等の視察 ・持続可能な観光開発 JICA 専門家との意見交換 ・日本・パラオ友好の橋視察、 　JICA 協力隊員（道路維持管理）との意見交換	コロール
＜３日目＞ 令和６年 11 月 20 日（水）	【案件視察等】（キ）～（サ） ・パラオ人的資源・文化・観光・開発省職員との 　意見交換 ・コロール州知事との意見交換 ・コロール州議会議長との意見交換 ・コロール州議会議員との意見交換 ・パラオ官房長官との意見交換	コロール
＜４日目＞ 令和６年 11 月 21 日（木）	【案件視察等】（シ）～（ス） ・パラオ国立病院視察、 　JICA 協力隊員（理学療法士）との意見交換 ・ミゼンティ高校視察、 　JICA 協力隊員（日本語教育）との意見交換 【現地視察】（セ） ・ペリリュー島	コロール
＜５日目＞ 令和６年 11 月 22 日（金）	【移動】 コロール発→グアム着 グアム発→成田着	

２　パラオ共和国における視察

（１）パラオ共和国の概況

　赤道直下・ヤシの葉の揺れる熱帯の緑の島・環境保全を最優先するパラオは、環境保護を目的とした入国・国民法を世界で最初に制定した国です。驚いたことに、パラオを訪れる人は、入国の際に、パラオの次世代のために、この島の生態系を乱さないことを誓う宣誓書に署名することが義務づけられています。入国時の私のパスポートにも「大切な誓い」を立て、そこに署名を行いました。私は今日まで世界 20 か国以上を訪問しておりますが、入国に際してこのような誓いを立てたのは初めてであり、環境保全に関するパラオ共和国の強い決意を感じるものでした。

生態系を乱さないことを誓う宣誓書

（２） パラオ共和国と横浜市の関係

なぜ視察先にパラオを選んだのか？ということを御説明します。

パラオは戦前、国連の委託を受けて日本が統治していました。最大都市のコロールには、当時の統治機構である日本の南洋庁が置かれ、近隣の南洋群島を統治していました。３万人を超える日本人がパラオに居住し、リン鉱石採掘、パールの養殖、パイナップル缶詰工場など各種産業が栄えていたと聞いています。

そのパラオには、横浜の根岸から飛行艇（水上飛行機）が発着し、その賑わいは近隣の南洋諸島の中でも随一の繁栄と謳われていました。

当時の横浜は、港湾はもとより、航空基地としても利用されており、文字通り国際港都でした。南洋航路を有していた唯一の日本の航空基地が横浜の根岸に存在したのです。パラオにも当然、横浜からの航空基地が存在しており、その様子は「南海の花束」という映画に収録されています。御関心がおありの方は御覧いただきたいと思います。

このように、パラオと横浜は深い歴史的な繋がりがあり、また、環境保護を優先して統治されている国家を視察することは、ことのほか有意義であると考えるに至り、本視察を行う原動力となりました。横浜市の古き友人国家であり、親日国家でもあるパラオ共和国の視察は、極めて有意義なものでした。

（３）視察及び意見交換の概要

①第１日目（令和６年 11 月 18 日（月））

日本からパラオへの移動（グアム経由）

②第２日目（令和６年 11 月 19 日（火））

（ア）駐パラオ日本国大使館訪問

駐パラオ日本国大使館を訪問し、臨時代理大使及び JICA パラオ事務所所員と面会し、パラオの現地事情と JICA 事業のブリーフィングを受けました。

意見交換の際に出た話題については、以下のとおり。

・医療人材の相互派遣・医療機器の貸与の可能性について
・産業振興（パールやパイナップル農業の再生）の可能性について
・パラオと横浜市の観光促進の可能性について　ほか

駐パラオ日本国大使館

（イ）ベラウ・エコ・グラス・センター視察

廃瓶や廃プラスチックなどの廃材を用いた資源再生事業に取り組んでいる施設を視察しました。ここは、パラオの重要な観光施設としてリサイクル循環型社会の象徴的な施設となることを最終目的として活動しています。

視察当時、廃棄物事務所に80名、ガラス工場に18名（うち日本人の職人は１名）が従事していました。廃物や廃ガラス再生品の展示販売状況も視察しましたが、再生品をお土産品として市場に流通させるには、時間とコストがかかるという課題を感じました。

ベラウ・エコ・
グラス・センター

（ウ）島嶼国型ブルーエコノミーの優良事例
形成プロジェクト視察

（エ）日本政府が供与した漁船等の視察

日本が供与したカツオ漁船とそのカツオ加工場を視察しました。あいにく休漁中で、漁の現場を視察することは叶いませんでした。収穫した魚の加工・産業化や、輸出に向けた供給体制の構築には、まだ時間が必要であるという説明を受けました。

日本政府が供与した漁船等の視察

（オ）持続可能な観光開発JICA専門家との意見交換

JICA専門家と意見交換を行い、今後のパラオの観光開発の方向性として、ロングステイやホームステイに焦点をあて、教育旅行も拡大する予定であると説明を受けました。また、海上だけではなく陸上アクティビティも拡大する必要があるという説明もありました。

（カ）「パラオ友好の橋」視察

2002年に日本政府の無償資金協力により完成したコロール大橋を視察しました。外観は横浜のベイブリッジによく似ており、重要な路線を支えるこの橋は、パラオの人々の交通を支える極めて重要なインフラとなっています。日本とパラオの国旗が描かれた銘鈑は、日本の誇りです。

ここは、独立記念日のイベント会場やナイトマーケットの開催、人々の憩いの場としても親しまれているそうです。

安全な橋を維持するために、専門職員の育成が課題です。

パラオ
友好の橋

③第３日目（令和６年11月20日（水））

（キ）パラオ人的資源・文化・観光・開発省職員との意見交換

意見交換の際に出た話題については、以下のとおり。

・パラオの観光振興を目的とする、ナイトマーケットや伝統的なダンス公演等の観光コンテンツの開発・磨き上げについて
・ロングステイ増加に向けたビザ取得手続きの迅速化について
・日本人観光客の減少に伴う日本語学習者の減少について
・パラオの歴史や文化を発信し観光客増加を目指すことについて　ほか

（ク）コロール州知事との意見交換

（ケ）コロール州議会議長との意見交換

（コ）コロール州議会議員との意見交換

意見交換の際に出た話題については、以下のとおり。

・横浜でのパラオの認知度向上施策について
・環境保護政策や脱炭素施策について
・スポーツ交流の可能性について　ほか

コロール州知事、州議会議長、州議会議員との意見交換

（サ）パラオ官房長官との意見交換

意見交換の際に出た話題については、以下のとおり。

・日本から寄贈されたMRI機器への謝意
（輸送が困難なため希少）
・パラオ病院は南西諸島で唯一のMRI設備を有しており、地域における医療の重要拠点となっていることの説明
・横浜とパラオの親善交流への期待　ほか

パラオ官房長官との意見交換

④第４日目（令和６年11月21日（木））

（シ）パラオ国立病院

JICA海外協力隊として活動している理学療法士の活動を視察し、同隊員と意見交換を行いました。

同病院は、パラオ国内唯一の国立病院で、簡単な手術が可能です。ここで、同隊員は、１日４～８名の外来・入院患者をケアしており、現地の医療人材育成のため、３か月間の１on１トレーニングを実施しています。また、在宅訪問でのバリアフリー提案も行っています。

同隊員の活動が、現地の人々に良い影響を与えており、患者からの信頼が厚いことがよく分かりました。（パラオの高齢者の中には日本語を話す人もいるため、日本語と英語を組み合わせた意思疎通を行っていた）

パラオ国立病院

（ス）ミゼンティ高校

JICA 海外協力隊の日本語教育の様子を視察し、同隊員と意見交換を行いました。

同校では約 60 名が日本語を学習していますが、日本語教育に必要な教材が不足し、隊員によるゼロからの基盤作りが必要であると説明を受けました。また、パラオでの教師の人材不足や、パラオ国内での教職課程がないなどの理由により、教員候補者は国外で教員免許取得後、パラオに戻るケースが少ないという説明もありました。

これらの現状を受け、日本語学習支援や日本文化を広報するセンターをパラオに設立し、横浜観光の広報や日本語の普及などを行っていきたいという希望が、私の中で生まれました。

今後も駐日パラオ大使館と連携し、小学１年から６年までの生徒がなじみやすい教育雑誌の支援等、ニーズを模索していきます。

ミゼンティ高校

（セ）太平洋戦争激戦の島・ペリリュー島慰霊

コロールから１時間40分かけてペリリュー島にわたり、天皇皇后両陛下の戦没者慰霊の旅に倣って、慰霊に参りました。悲しい激戦の島には、戦いの痕跡があちらこちらにあり、深く首を垂れました。

激戦が行われて３万余の死傷者が出た戦乱の地に残された日本戦車やゼロ戦の姿を見た時、心が痛みました。戦争はしてはいけないと、改めて強く心に刻みました。

⑤第５日目（令和６年11月22日（金））

パラオから日本への移動（グアム経由）

以上